

西大和つうしん

2018年1月号
No.427



六甲縦走(中コース)にて大龍寺付近の紅葉 <2017年11月26日>

奈良県勤労者山岳連盟
西大和山の会

西大和つうしん

第427号(2018年1月号)

【目次】

1 月度山行計画	1
2 月度山行計画	2
1・2 月度カレンダー	3
山行・行事等参加メモ	4
山行報告	
・登山学校 《11/17-18》 台高山脈 高見山大峠・北尾根(船江)	5
・自主山行 《11/19》 鈴鹿山脈 仙ヶ岳(杉村)	6
・例会山行 《11/26》 六甲山系 六甲縦走中コース(上田)	7
・登山学校 《12/2》 六甲山系 地獄谷・ピラーロック(永井)	8
・例会山行 《12/3》 布引山地 経ヶ峰(阪口)	9
・教育山行 《12/10》 和歌山の山 兵ヶ城山(永井)	10
室内例会だより(11/29)	12
運営委員会議事録(12/9)	12

1 月度 山行 計画

～新春、のんびり山行～

例会山行1 六甲の山 《東お多福山》 697 m

【日程】2018年1月7日(日) (L島崎)

【集合】JR王寺駅 8時20分(8:31発)

【交通/往】王寺駅(8:31)～(9:08)大阪/阪急梅田(9:30)～(9:50)芦屋川/阪急バス
⑥番(9:59)～(10:20)東お多福山登山口バス停

【コース】東お多福山登山口バス停～(50)～東お多福山(昼食 60)～(15)～雨ガ峠
～本庄橋跡～(30)～土樋割峠～(30)～東お多福山登山口バス停

【交通/復】バス停(14:02)⇒(14:25)阪急芦屋川(14:37)⇒(15:05)阪急梅田/大阪
(15:28)⇒(16:03)王寺駅

※歩行時間：約2時間10分、歩行距離：約5km

教育部主催「教育講座」第5回

(参加者は12月24日の室内例会で募集)

【日程】座学：1月12日(金)《講師：藤本》19:30～事務所
実技山行：1月21日(日)《担当：藤本(Lは別途選任する)》

【テーマ】雪山登山

雪山登山に必要な装備と使用法に加え、冬の気象判断等、雪山特有の実践的な知識を学びます。

※実技山行の行き先は、参加者に合わせて座学で決定します。

※原則として実技山行のみの参加はできません。ただし、やむを得ない事情で座学に参加できない場合は相談に応じます。座学のみ参加も歓迎します。

～天空の空木城跡をたずねる～

例会山行2 兵庫の山 《伊勢山》 362.8m

【日程】1月28日(日) (L田中初)

【集合】上牧駐車場 7時00分

【コース】ヤマザクラ広場～(西山南コース:30)～展望台～(50)～神座の窟～(15)～空木城跡～(15)～伊勢山～(80)～奥山～(20)～峠～(20)～ヤマザクラ広場

※歩行時間：約3時間50分

2 月 度 山 行 計 画

～雪を踏みしめて湖北の名峰に登ろう！～

例会山行1 比良山系 《蛇谷ヶ峰》

【日程】2月4日(日) (L藤井)

【集合】JR王寺 7:00 発大阪行に乗車

JR：王寺(7:00)⇒大阪(7:39/7:45)⇒近江高島(8:54)

バス：高島(9:04)⇒畑(9:26)

【コース】畑～(1h30)～ボボフダ峠～(1h10)～蛇谷ヶ峰～(1h40)～朽木いきものセンター～(35)～朽木役場前⇒(バス)⇒JR安曇川駅

※歩行時間：約5時間

～滋賀県・福井県の県境に位置する好展望の山～

例会山行2 湖北の山 《赤坂山》

【日程】2月25日(日) (L辻)

【集合】JR王寺 7:00 発大阪行に乗車

(往路)王寺(7:00)⇒大阪(7:39/7:45)⇒マキノ(9:26/9:46)⇒マキノ高原さらさ(9:59)

(復路)マキノ高原さらさ(15:20)⇒マキノ(15:36/15:50)⇒大阪(17:27/17:43)⇒王寺(18:19)

【コース】マキノ高原さらさ～(10)～赤坂山登山口～(50)～東屋～(50)～栗柄峠～(15)～赤坂山～(50)～東屋～(40)～登山口～(10)～マキノ高原さらさ

※歩行時間：約3時間45分

西大和山の会 カレンダー

1月			2月		
1	月		1	木	県連・初級登山学校・座学
2	火		2	金	
3	水		3	土	県連・初級登山学校・実技(～4日)
4	木		4	日	例会山行1《蛇谷ヶ峰》(藤井)
5	金		5	月	
6	土		6	火	県連・理事会
7	日	例会山行1《東お多福山》(島崎)	7	水	
8	月		8	木	
9	火	県連・理事会	9	金	教育講座 第6回座学(藤本)
10	水		10	土	
11	木	県連のあり方検討委員会第6回	11	日	
12	金	教育講座 第5回座学(藤本)	12	月	
13	土		13	火	
14	日		14	水	
15	月		15	木	
16	火		16	金	
17	水		17	土	教育山行《総括》(橋本)
18	木		18	日	
19	金		19	月	
20	土		20	火	
21	日	教育山行《雪山登山》(藤本)	21	水	西大和つうしん原稿締切
22	月		22	木	
23	火		23	金	
24	水	西大和つうしん原稿締切	24	土	
25	木		25	日	例会山行2《赤坂山》(辻)
26	金		26	月	
27	土		27	火	
28	日	例会山行2《伊勢山》(田中初)	28	水	2月度室内例会
29	月				
30	火				
31	水	1月度室内例会			

山行・行事等参加メモ

No	氏名 (入会順)	12/24	1/7 例会 1	教育講座		1/28 例会 2	2/4 例会 1		
		室内 例会	東お多 福山	1/12 座学	1/21 実技	伊勢山	蛇谷 ヶ峰		
1	(窪田)								
2	都築								
3	藤井						LO		
4	(石田)								
5	田中悦								
6	島崎		LO						
7	田中初					LO			
8	村田								
9	林								
10	辻								
11	勝尾								
12	藤本			講師					
13	杉村								
14	高橋								
15	玉越								
16	阪口								
17	橋本								
18	今井								
19	亀高								
20	船江								
21	野路								
22	中								
23	杉森								
24	上田								
25	永井								
26	川田								
27	高岡								
	合計								
	緊急 連絡先								

L:リーダー、○:参加、◎:車

※室内例会時点での参加予定であり、その後変更されることがあります。

山行報告

県連初級登山学校（テント泊・ルートファインディング）・実技山行

台高山脈 高見山大峠・北尾根

【日 程】11月17日（金）夜発～18日（土）

【参加者】《県連教育部》L 藤本（西大和）・杉川（奈良労山）

《受講生》船江・中・杉森・永井、他会：奈良 HC2・こぶし1（計9名）

11月17日（金）深夜 23:40 榛原駅集合

ルートファインディングがテーマだったが前夜泊から始まることになり、テント泊を経験出来ることになった。私は今期、西大和例会のテント泊山行に一度も参加出来ていなかったの、雨予報であったが嬉しかった。

自宅までメンバーをピックアップして頂き 2台の車が榛原駅に集合。予定していた幕営地へ向かう。ところが土砂が道を塞いで車両が通行不可！予定の幕営地を断念することになり、夜道をテン場探しに迷走。最終的に高見山南麓の大峠に決定となる。



大峠に着く頃から降り出した雨が、いよいよ本降りになり雨の中テントを張る。テントは2張り。大きいテントに集まり、ガソリンストーブの点火を学ぶ。圧をかけ、バルブを開けホワイトガソリンを慎重に流し込み点火。流し込む量が多いと炎が上がりすぎテント内では危険だ。同時に、酸欠のインジケーターにもなるロウソクを灯す。ガソリンストーブの暖かさには驚いた。宴が始まりお酒も入り、外は雨が激しくなっていたが、テントの中は汗をかくほどの暖かさだった。翌日はルートファインディング。でも朝から雨予報・・・なので宴は続くよ～いつまでも～♪

深夜3時半頃になってやっと解散し床についた。激しい雨音がテントに響く中でも、ぐっすり暖かく眠れたのは、必須アイテムだと座学でしつこいくらいに聞かされた『シュラフカバー』でシュラフを包んで寝たおかげかな？

11月18日（土）ルートファインディング

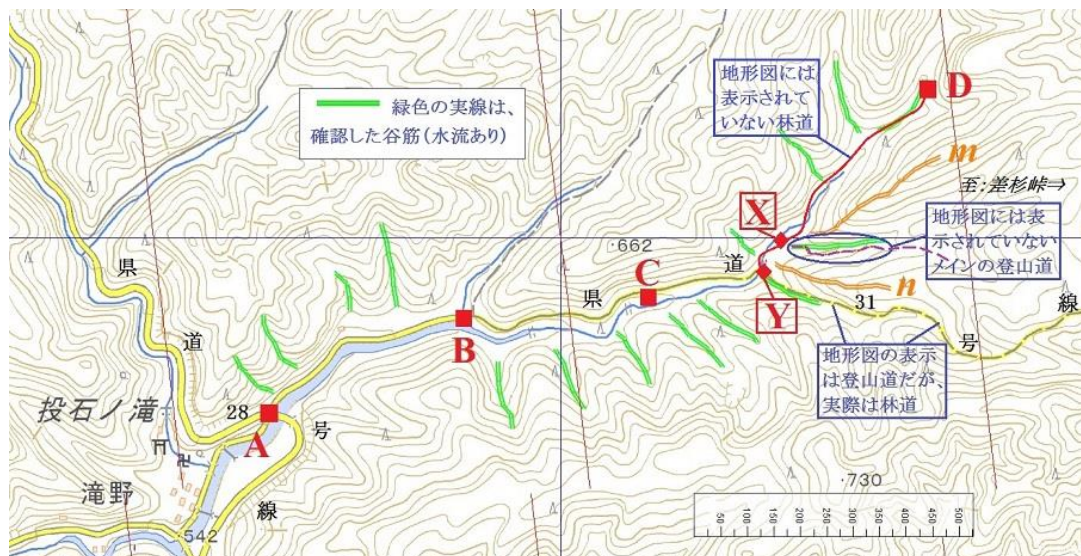
【コースタイム】A地点〔瀧野集落・県道 28 号 31 号交差点〕(12:56/13:22)～B 地点(13:41)～C 地点〔小ピーク 662 地点の南方・道沿いの広場(13:50～54)～D 地点(14:26)～A 地点(15:20)

朝、雨は小降りになっていた。8時半頃に朝食。「縦走 3 日目の朝食」を設定した野菜・ソーセージ・餅のラーメンを F さんが材料を用意して下さいました。

11:00 ほぼ雨は止み、出発の用意。まずテントを撤収。雨に濡れて重くなったテントは畳みにくい。ポールの収納は端から折らず中心から折り畳むことでゴムの劣化を軽減出来る。実地経験こそが勉強になる。



12:50 出発地点の同定をする。県道の方向を確認し地図で現在地を読む。2班に分かれ、林道筋から地図読みしながら進む。Fさんからトラップがあるよ、と聞いていたのでワクワク。水の流れ出ている谷筋を発見しては地図と位置確認をする。



地図でここ！と思っていた谷が、その先に顕著な谷が現れて後のが正解・・・の失敗を繰り返す。地図通りに登山道の向きが変わり安堵する。雨上がりの為、水流のある谷は多く、川に見えるそれが地図に無いものも多い。B～C地点の間も、川に見えた蛇行する水流に惑わされ、読図が出来ず現在地をも見失う。

C地点(当初予定していた幕営地)を過ぎたあたりで、右に顕著な谷が何本も現れ、左に等高線の狭い尾根を確認しこの上が662ピークであると同定する。その後、地形図では右に登山道の分岐だが、実際のそこには立派な林道があった。分岐を左に更に進み谷筋を確認。すると右にあれっ？小さな標識が！見過ごしてしまいそんな登山道を発見。それこそが差杉峠へ向かう登山道で、地形図には記されていなかった。まんまとトラップに引っ掛かる私達に、にんまり顔のFさん。地形図の登山道が正しいとは限らない。谷筋を見つけ地形図で確認しても、まだ特定は出来ない。たぶんここ！なんて、ふわっと確認していた谷は、その先へ進み次々と確認できる谷を見つけてやっと間違いなかったと特定出来る。谷の方向確認を怠っていれば間違いの元になる。

コンパスで地図を整置し自分の位置を常に特定する作業は、命を守る大切な行為なのだ。道迷いや失敗を多く経験するほどルートファインディングの習得に役立つらしい。失敗を繰り返す自主トレに励もう！ただし近場の安全そうな山で・・・。

(記：船江照代)

自主山行 鈴鹿山脈 仙ヶ岳 961m

【日程】11月19日(日)曇り時々小雨・小雪のち晴れ

【参加者】L 杉村・藤井・田中(3名)

【コース】大石橋登山口(8:20)～仙鷄尾根分岐(9:16)～小社峠(10:14)～仙ヶ岳山頂(10:45/11:00)～昼食(11:08/28)～東峰(12:00/10)～仙ノ石(12:18)～仙鷄尾根分岐(12:55)～大石橋登山口(13:40)

仙ヶ岳の登山コースは幾つかありますが、裏コースは悪路のため小社峠から仙鷄尾根コースをとりました。

荒れた山道がいくつかあったので登山口を探すのに時間をロスしました。雪が所々つもる山道の急登があり、流れの速い川を何度も渡り進みました。周りの稜線が見え出すころ強い風と共に小雪が降りだし、みるみる樹氷が出来それは美しい景色となりました。残念ながら御在所、鎌は雲に隠れていましたが、遠く稜線にも



白く綺麗な樹氷が見え、タイミング

が良かったです。山頂手前ではその樹氷に太陽が当たりパラパラと落ちてきました。自然の素晴らしさに魅了されました。岩稜や急登を楽しみながら 360 度の眺望ある山頂(西峰)に。15 分で展望のない東峰に。すぐ側にある珍しい大石、仙ヶ石にも寄りました。紅葉と
(記：杉村好子)

素晴らしい樹氷に感動した山行が出来ました。

例会山行 2

六甲山系 六甲縦走 (中コース) 鍋蓋山～摩耶山

【日 程】 11 月 26 日 (日) 晴れのち曇り

【参加者】 L 亀高・S L 島崎・田中悦・林・高橋・船江・野路・中・杉森・上田・永井 (11 名)

【コース】 鈴蘭台(8:35)～登山口(8:55)～縦走路出合(9:28)～天王谷吊橋(10:00)～鍋蓋山(10:35)～大龍寺(11:10)～市ヶ原 (11:30/12:00 昼食)～学校林道出合(13:00)～掬星台(13:50)～摩耶山(14:00)～阪急王子公園駅(15:30)

鈴蘭台駅から歩いて 10 分、住宅地を抜けると登山口に着く。軽装で早ばやと下りてくる人、登って行く人達に出会う。地元の人たちの散歩コースになっているようだ。私たちもひんやりとした空気の中、登り始める。サラサラと沢の音、落ち葉を踏む音、紅葉も残っている。30 分ほどで縦走路出合到着。木々の切れ間から新興住宅地が見える。カラフルな屋根や街路樹が秋空に映える。天王谷吊橋にさしかかる。橋の下は国道 428 号線で別名有馬街道と呼ばれ、神戸市街地から有馬温泉を通り宝塚方面に続いている。アップダウンを何度も繰り返し高度をあげて行く。登山道は枝打ちされ明るい。30 分ほどで鍋



蓋山(486.5m)着。大阪湾や神戸の街が一望できる広場になっており、7～8個のベンチも設置されていてお勧めの休憩ポイントだ。快調に歩を進める。大龍寺では色鮮やかなモミジを見上げながら歩く。みんなの顔もほころび、記念写真を数枚撮る。

だんだんハイカーが増えはじめた頃、昼食場所の市ヶ原広場に到着。市街地から約1時間で来られることもあり、バーベキューやピクニック、子供たちも多く賑わっていた。山行後半を歩きはじめるが、昼食後の足は少々重い。稲妻坂、天狗道、ゴロゴロ坂から掬星台、摩耶山まで標高差400m、約2時間のしんどい上り坂が待っていた。掬星台は大阪湾が一望でき、夜景が有名でおすすめスポットになっている。摩耶山頂は薄暗い杉木立の中であって寂しい印象だった。一息ついていると雲行きが怪しくなり、風も出始めて気温が下がり始める。今回の縦走路(中コース)は予定より早く消化し、市街地へ下山開始。しばらく下ると旧天上寺跡地を通過する。跡地は昭和51年に消失、広場として整備され礎石だけが静かに往時を偲ばせている。季節は秋で、夕暮れ近くだった事もあり、心がしんみりとしてしまった。それもつかの間、参道は急な長い下り階段となり転がり落ちそう。緊張しながら不規則な石段や崩れた参道を下る。昔の人は、この参道を麓からお寺までお参りに来るのかと考えると頭が下がる。



ようやくアスファルトの道に出た。神戸はどこを通っても坂の町、最寄りの駅、阪急王子公園まで足にまかせて坂道を下る。午後は怪しい空模様だったが、なんとか雨にも降られず、日没前に帰路につくことができた。

(記：上田雅子)

県連初級登山学校(ガレ場/岩場歩き)・実技山行

六甲山系 地獄谷～ピラーロック

【日程】12月2日(土) 曇り

【参加者】《県連教育部》L 杉川・中武(奈良労山)

《受講生》船江・中・杉森・永井、他会：奈良 HC
3名(計9名)

【コース】阪急芦屋川駅(8:58)～高座の滝(9:26)～地獄谷入口(9:31/10:30)～地獄谷〔アイゼントレーニング・カエル岩で昼食〕(10:32/12:38)～A 懸垂尾根(13:42)～展望岩(14:15)～ピラーロック(15:10/30)～風吹岩(16:10)～芦屋川駅(16:40)

地獄谷入口では、これから登山する人がたくさんいて登る準備をしていた。我々も講師の指導を受けながら、アイゼンの装着にとりかかる。慣れないので手間取る。アイゼンとスパッツの順番を間違え、やり直す。簡易ハーネスとカラピナも装着した。

最初は歩きづらく、アイゼンのデメリットであるつまずき





が怖い。アイゼン歩行技術の基本のフラットフットディングを意識する。歩幅を小さくしすぐに体重をかけず、滑るなど不安定であれば元に戻せるようにしておく。足の置き場を常に意識し、一歩先の足の置き場を決めて踏み出す。沢歩行では、大きな石は滑りやすいので、水流の中の砂利を踏むほうが安全。地獄谷では流れに沿って岩場が続き、中には高さ5メートルくらいの滝があり、手も使い左右の足をバランスよく使わないと登れない。人が登るのをよく観察し、

登る前にイメージしておくことが大切。左右の足のどちらからでも行けるが、効率よく安全に登れる方を選ぶ。危険な難所では慎重に進み、安全な箇所で一息つくリズムである。

小便滝を超えたところに、垂直に岩壁があるロッククライミングの練習場があった。岩にへばりつき、アイゼンの前爪だけで水平に移動する練習をする。腕の力をかなり使う。引く力も大事だが押す力も有効に使えることが分かった。

また、トラバースの歩き方も練習する。足場が狭く、山側の足を慎重に前に運ばないと、谷川の足に引っ掛けてしまいそうになる。ピッケルがあれば楽に歩ける。

ピラロックでは、いろんな傾斜での登り・降り・トラバースを繰り返し行った。急斜面の登りは、両足を逆ハの字にして少しエッジを効かせる。砂の斜面の降りのグリセードと停止の仕方も習う。

展望岩では、はるか見渡せる金剛葛城山地や生駒山地を確認した。コンパスと地図を使って現在地の確認を行った。

今回の経験で、アイゼンを使っての岩場の登り・降りは、通常の登山よりも踏みあげる脚力と腕の懸垂力が必要なことが分かった。
(記：永井 章夫)



例会山行1

布引山地 経ヶ峰 819m

【日 程】12月3日(日) 晴れ

【参加者】L 林・SL 藤井・島崎・田中悦・村田・田中初・阪口・橋本・船江・中(10名)

【コース】 笹子谷登山口(8:55)～林道終点(9:20)～北笠岳分岐(10:35)～山頂(11:05)～休憩小屋(11:20/12:00 昼食)～北笠分岐(12:08)～笹子岳(12:12)～嘉嶺の頭(13:00)～トラバース～林道終点(14:25)～登山口(14:35)

快晴の天气に恵まれ、笹子谷登山口から経ヶ峰、北笠岳へ抜けるコースで登り出す。駐車場から少し林道を歩き、林道終点に登山口がある。登山道は緩やかで歩きやすい。川を二度ほど渡渉するあたりから道は急になる。尾根筋に着く手前から新しく道が作られていて、何なんだろうと思っていると、北笠岳分岐まで植林をした

ようで、支柱が何本もさしてあり、踏んでももらいたくないので新しい登山道を作っているようだ。北笠岳分岐から先は、倒木はあったが穏やかな道で、少し行くと休憩小屋に到着する。中は前日泊まった登山者で賑わっていたので、少し休憩をして山頂に向かう。



山頂は、親子連れや年配のハイカーが来ていて、360度の眺望を楽しんでいた。時間も早かったので昼食は休憩小屋で食べようと下山する。日差しが暖かかったので小屋前の広場で昼食を食べることにするが、愛想の良い迷彩服を着た、なんちゃって自衛官の男性とお喋りして別れた後、色々な趣味があるのだなあと話しが盛り上がる。ここから北笠岳に向かう。分岐から少しで笹子山頂上に着く。頂上と言っても、標識がなければ解らないような、小さな頂上である。その先の嘉嶺の頭を目指す。目の前に見えてきた嘉嶺の頭は、急登だがロープも付いていて木の階段もあり、ゆっくりと登る。山頂からは北笠岳への登山道が不明瞭なので、予定変更してそのまま下山する事に。最初は踏み跡があったのだが、段々不明瞭になり、これがすごく急で、道なき道を急降下。本来なら、早く降りられると思っていたが、慎重に降りたので、かえって



時間を取り、林道に降りたときは緊張の糸が切れたのかどっと疲れが出た感じ。だれも怪我無く無事に降りられて良かった。GPS 携帯をもっていたので、ある意味安心して下山できたが、地図だけだと現在位置が解らないので少し不安だったと思う。地図読みは基本だが、やっぱりこれからの登山は機械も上手く使いながらと言うのが、主流になるのかなと思いました。

(記：阪口百合子)

教育講座第 4 回 (ルートファインディング)・実技山行 和歌山 (有田川町) の山 兵ヶ城山(701m)

【日 程】 12 月 10 日(日)

【参加者】 L 藤本・SL 辻・橋本・中・杉森・永井 (計 6 名)

【コース】 善福寺(9:02)～黒石山(10:33)～△兵ヶ城山(12:44/13:05 昼食)～△688.5 (13:47)～《北野川谷川と四村川の間の尾根》～下浦・油滝・善福寺(16:34)

出発地の善福寺で登り口を探す。二ヶ所見つけたので、二組に分かれて試しに進んでいくとある地点で合流した。ここから登り始めるが、等高線が込み合っている急こう配でつづら折りの坂が続く。さらに行くと道が分かれ、急傾斜の尾根と西

ヘトラバースする道があり、また二手に分かれる。再び合流し急登をしていくと、今度は北東にトラバースする道があり、受講生は尾根を直登することにし、次の集合地を確認して分かれる。

かなりきつい急登が続き、もはや道はなく木の幹や枝をつかみながら必死に登る。やがてなだらかな頂に着くが、地図と地形が違う。コンパスを見ても黒石山との位置関係がつかめない。必死の急登でルートを外したということか。何度か笛を吹くが反応はない。しばらく行ったり来たりしていると黒石山に通じる道だと分かった。黒石山で一息ついて合流点を目指す。しかし、尾根伝いに行くはずが、踏み跡をたどっていくうちトラバースの道を歩いている。しかも道がなくなってきた。あわてて位置を再確認する。前方の尾根らしきところまで行ったら北東に向かう道があるはずとの思いで歩を進める。尾根まで登ったところ、山道がありほぼ同時に「L」と思われる声が聞こえた。そこに寒さに震えながら待っている二人の影が見えた。出発してから既に2時間を経過している。先が思いやられる。



次の目標の兵ヶ城山に急ぐ。ここからは、登り降りを繰り返すがほぼ尾根を縦走するコースであり、道もわかりやすい。途中、小ピークごとにコンパスで地図を整

置し、周りの地形（尾根や谷）を観察して現在地の確認を行う。林道に通じる登山道があったのでエスケープルートとして目印をおく。兵ヶ城山に着いて短時間の昼食をとり、ルートに従い尾根伝いに縦走する。

688.5メートルの三角点を超えてしばらくすると、道がなくなり踏み跡もなくなる。とにかく尾根を外さないように歩く。たくさんの枯れ枝と倒木が行く手を阻む。パーティの間隔が見えなくなるほど空いてくる。途中、谷川沿いの登山道へとエスケープを試みるが、困難な傾斜が続き断念。もとの道なき道を歩き続ける。疲れがピークになり、小ピークを避けてトラバースするが、かえって体力を消耗することが分かり、ひたすら尾根を歩く。

つらく長い行程も終わりに近づくが、最後の試練が待っていた。道なき道の激降りである。木の幹と枝を頼りに慎重に降り続ける。最後まで気が抜けない。脳力と体力を使い疲れるが充実した山行だった。

(記：永井章夫)



室内例会だより

【日 時】2017年11月29日(水) 19:30~20:30 事務所

【出席者】都築、藤井、田中悦、島崎、田中初、村田、林、辻(文責)、勝尾、藤本、阪口、亀高、中、杉森、上田、永井、高岡

1. 山行計画

12月3日(日) 例会山行1 布引山地《経ヶ峰・819m》……………L 林
12月17日(日) 例会山行2 紀伊山地《高野山町石道》……………L 辻

2. 教育部主催「教育講座」第4回

テーマ：ルートファインディング

座 学：12月1日(金) 講師：藤本 19:30~事務所

実技山行：12月10日(日) 行先は座学時に決定

3. 山行報告

10月14~15日 教育山行(テント泊)大峰山脈《大天井ヶ岳》L野路……………9名

10月26~29日 自主山行 北アルプス《下の廊下》L島崎……………4名

11月5日 自主山行 紀北の山《龍門山》L島崎……………7名

11月12日 例会山行(公開山行) 葛城山 L橋本……………14名

11月19日 教育山行 金剛山地 屯鶴峯 L野路……………6名

4. 連絡その他

★県連関係

- ・来年度の県連行事への参加意向についてのアンケート実施。

県連のあり方検討委員会が、11月末に提言をまとめ各会に持ち帰り、会としての見解を示す事になっている。その中で県連行事を今後どうするかという内容で、各行事の参加意志・希望等のアンケートを実施。

★本会から

- ・忘年会について

日 時：12月24日(日) 室内例会終了後 17:00~

場 所：や台ずし

会 費：男性 3,500円/女性 3,000円

運営委員会議事録

【日 時】2017年12月9日(土) 13:00~16:50 事務所

【出席者】島崎、辻、勝尾、藤本、橋本(文責)、亀高

1. 2018年度役員改正について

- ・新役員推薦、内定についての報告。
- ・来年度の運営委員会体制について下記の意見が出る。
 - ①会長は選挙で決定してはどうか。
 - ②事務局・教育部等にスタッフを設け、部長の任務の軽減化を図ってはどうか。

2. 会則、山行規定等、諸規則の改定案の最終確認

- ・会則、山行規定、車両利用に関する規定(細則1)、山行計画及び山行報告の会報・ホームページへの掲載規定(細則2)、緊急対策規定(細則3)、特別基金運用規定(細則4)の6規則の改定案について、前回の運営委員会で検討し修正した箇所を中心

として議論した結果、誤字修正を含め4規則を修正した。

- ・修正した4規則(案)を会報部長から回覧するので、運営委員は再確認する。
- ・再確認後の規則は(案)として総会にて信を問うが、量が多いので、事前に会員に回覧する。

3. 2018年度例会山行計画及び行事の日程について

・例会山行計画日程(案)の検討

- ①県連行事山行の5月搬出技術講習会と9月広域捜索訓練が実施されれば例会山行2とするが、実施されない場合は例会山行1に変更する。10月の交流山行が実施されない場合も、通常の例会山行1とする。
- ②8月は夏山シーズンで夏山自主山行が活発になるため、例会山行(例会山行1)は1回のみとする。
- ③例会山行の日程が決定したので、今期の山行リーダーに対して引き続きリーダーの依頼をし、新たに今期の県連初級登山学校修了者にも参画してもらう。
- ④夏山自主山行の参考とするため、会として夏山希望先のアンケートを4月ごろ実施する。

・行事日程について

- ①例年通り、7月に室内例会は実施せず、7月、8月合同の室内例会として8月29日(水)に行く。
- ②暑気払いは、9月2日(日)の山行(広域捜査訓練 or 例会山行1)の下山後に実施する。
- ③第38回定期総会は、2019年3月31日(日)とする。

4. 例会山行の日程に自主山行を計画する件(9月16日からの継続審議事項)

- ・例会山行の日程に自主山行を実施する件については、規制は設けないこととするが奨励するものでもない。

5. 2018年度以降の奈良県連の体制について

- ・「県連のあり方検討委員会」の中間報告を受けて、本会の見解をとりまとめるとともに、2018年度県連行事实施の要望について検討した。

・本会の見解のとりまとめ

2018年度以降の県連活動に関する「県連のあり方検討委員会」の中間報告資料(藤本による)について、本会運営委員会の見解は以下の通りとする(見解は「⇒」に続く**太ゴシック字体**で表示)。

※本会の見解(**太ゴシック字体**)を示していない項目は、本会運営委員会としては異論がないことを意味する。

※本件について、運営委員会が本会としての最終見解を示すものとする。

- 1) 県連組織は存続させる。しかし、理事会体制を大幅に縮小し、活動はこの体制で実施可能なものだけに限る。
- 2) 執行部を担う常任理事4職(理事長・副理事長・事務局長・会計)は廃止する。
- 3) 専門部(機関誌部・教育部)は設置しない。これに伴い、当該部の部長(機関誌部長・教育部長)の選任も停止する。
- 4) 専門委員会(自然保護委員会・女性委員会)については、その活動を担うに足るメンバーが確保できるかぎり、これを設置する。なお、必要に応じその代表を理事会に参加させる。
- 5) 理事会組織は、各会の代表理事(7会より1名ずつ)と専門委員会の代表および事務局で構成する。

- 6) 事務局は奈良労山と奈良 HC が交代で担当し、事務連絡業務のみ行なう。任期は3年を目途とする。
- 7) 会計業務 は、奈良労山・奈良 HC を除く会の代表理事（西大和・オオヤマレンゲ・山楽会・JAC・山遊会の代表理事5名）のうち1名が交替で（任期は今後検討）兼務する。
- ⇒会計担当の常任理事を廃止し、代表理事の兼務とするのに伴い、会計業務の徹底的な簡素化が必要。さらに、奈良労山・奈良 HC 以外の会の代表理事が持ち回りで会計を担当することに配慮し、以下のような方策を要望する：
- ①奈良労山・奈良 HC の2会のみが県連と分担している会計項目（一般会計のうち、事務所家賃・自治会費・水道代・電気代・事務所関係消耗品代・印刷機維持費・印刷機消耗品費；および事務所設備積立）については、あらかじめ奈良労山・奈良 HC と県連事務局の3者のみにて配分を決定（理事会の承認は必要）、実際の執行は奈良労山・奈良 HC の会計が行ない、県連が負担する分のみを年度末に両会から県連会計に一括請求する。
- ②自然保護委員会、女性委員会、クリーンハイク関係（従来どおり独立して行う場合）、救助隊（存続させる場合）の活動にかかる予算執行は、担当の各部局が会計処理を行い、年度末に県連会計に一括請求することによって行なう（あるいは年度初めに決定予算額を予め会計より支出し、年度末に精算）。なお、これらの部局以外が主催する県連独自の行事に係る予算執行もこれに準ずる。
- ③以上のような手続きをすることを考えると、いっそうのこと、奈良労山・奈良 HC が交代で担当する県連事務局が同時に会計も担当する（あるいはこの2会のうちで事務局を担当していない方の会が会計を担当する）という方法がより望ましいと考えられる。2会の負担は大きくなるが、引継業務等の大幅な簡略化が期待できる。
- 8) 定例理事会は従来どおり月1回開催する。
- ⇒理事会組織を縮小し、それに見合う活動のみにする以上、定例理事会の開催は多くても2か月に1回、あるいは3ヶ月に1回程度でよいと考えられる。理事会での審議を必要とする案件が発生した場合（緊急対応を要するものに限る）と年度末については臨時理事会を開催することで対応すればよい。
- 9) これまで理事長が担ってきた業務は、各会の代表理事が交代、もしくは分担して行う。
- ⇒可能なものに限る。全国連盟や近畿ブロックの会議等への出席も、奈良県連として特段の意見表明をする必要がなければ、当該の会議決定に一任することとし、結果報告を受けるのみで良い。
- 10) 救助隊組織の存廃は未定。よって、現行の救助隊役員の任命を存続するか否かも未定。
- ⇒これまでに出勤の実績がないこと、現在の救助隊員の平均的技量が決して高くはないこと、また近年は警察や消防の救助技術・設備が向上していることなどから、実際の救助はもちろん、捜索等における県連救助隊の実効性はあまり考えられないので、廃止してよい。
- ⇒本会の山行レベルから考えると、搬出や捜索よりもむしろ救急法の講習の方がより大きな意義が認められる（ヘリが来るまでの対応等）。
- 11) これまで実質的に奈良県連を代表してきた理事長もしくは事務局長職を廃止することに伴い、奈良県連の形式的代表として会長を置く。会長は理事会の成員ではないが、必要に応じて理事会に出席し、意見を述べるができる。

- 12) 奈良県連独自で実施してきた行事は、原則として全て廃止する。但し、実施の要望が強い行事に関しては、それを無理なく実施するに足る複数の意欲的なスタッフが確保できる場合に限り行なうこととする。この条件を満たす場合は、行事の新設も可とする。

⇒奈良県連独自で実施する行事については、理事会はその実施の可否判断および実施に係る予算配分の決定のみを行い、行事の実務は全て当該行事担当責任者を中心に担当スタッフが行う。ただし、各行事の責任は担当責任者および理事会が負うこととする。

・ 2018 年度県連行事实施の要望について

①本会として実施が極めて望ましいと考えるもの：

◆クリーンハイク（ゴミの収集を除く。特に関係自治体の協賛等は求めない）

②本会として実施の要望をするかどうか検討中のもの

◆岩稜歩行訓練

◆岩登り訓練

③上記①②以外の行事实施については、県連理事会の決定に一任する。

※②について、今後の手続き：

◆先の参加希望調査での結果に基づき、実際の参加希望者から、具体的な目的や要望の聴き取り。

◆実施担当責任者（奈良 HC より）に対し、具体的実施体制と内容、および、事故発生時の責任の所在についての確認*（註）。

上記 2 項の結果を受け、運営委員会にて会としての結論を出す。②についての選択肢として、以下の 3 通りが考えられる。

A) 会として県連に実施を要望する

B) 実施を要望しないが、実施されることになった場合は参加者を派遣する

C) 要望も参加者の派遣も行わない

*（註）教育として実施される行事については、教育の目的となっている技術等について未熟な受講者が、指導者の指示に従っていたにもかかわらず、当該の技術等の未熟さゆえに事故を起こした場合、受講者の自己責任は問えず、もっぱら指導者側の監督・注意義務に係る責任を問うことになる。

6. 運営委員会議事録作成について

- ・従来の「運営委員会だより」は、「運営委員会議事録」として（案）を運営委員全員に回覧して承認を得ることとする。
- ・議事録（案）は、議事項目ごとに発議者が起草する等、議事録（案）作成の合理化を図る。
- ・運営委員は、回覧された議事録（案）を必要に応じて加筆修正し、指定の締切日までに回答する。回答無き場合は、承認したものとみなす。
- ・委員全員の承認を得た議事録を HP 及び会報に掲載する。

以上

西大和つうしん

第 427 号 (2018 年 1 月号)

2017 年 12 月 24 日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 亀高 茂

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会
〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32
窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

<http://www.nishiyamatoyama.com/>